

## 取締役 インタビュー



**正村 達郎**

社外取締役



**上田 望美**

社外取締役(監査等委員)



**青柳 淳一**

社外取締役(監査等委員)



**脇永 徹**

取締役(常勤監査等委員)

2021年度は、中期経営計画「GLP2023」の開始年に当たります。今中計期間では新たな経営ビジョンのもと、グローバルなガバナンス力の向上を目指し、取締役会の多様性の推進や社外取締役比率向上などを目標に掲げています。今回、2021年度から社外取締役に就任された方々に、今後のアンリツに対する期待や課題について語っていただきました。

(インタビュー実施：2021年7月)

**脇永：**お忙しいところ、ありがとうございます。この度は、2021年度から社外取締役に就任された皆さまにご意見を聞かせていただくことになりました。まず、皆さまの専門分野とご経歴についてお聞かせください。



**正村：**私は無線通信分野の技術者として、日本電信電話株式会社で衛星通信の研究開発やシステム実用化、技術企画などに従事した後、NTTドコモで4Gシステムの研究開発に携わり、その後、無線システムメーカーに移り、研究開発の他、品質保証を担当しました。技術者として新しいことに挑戦し続け、何事にも興味を持ち、「わくわく感」と情熱を持って取り組むことを大切にしています。

**上田：**私は弁護士として長年、企業法務を中心に幅広い分野の案件を取り扱ってきました。近年は会社法や一般的な商取引のほか、労働問題、知的財産権などに関連する紛争解決や計画立案段階の案件にも関わっています。仕事を行う上では、どのような立場で紛争等に関与するとしても、社会正義の実現に向けて努力することを大切にしてきました。

**青柳：**私は公認会計士として、会計監査に加え、J-SOX対応や内部統制に関する助言、株式公開準備、調査業務等に携わってきました。過去には、提携先のオランダ法人に外向し、日系企業等への支援・アドバイス業務などに従事した経験もあります。これまで、物事に誠実に取り組み、信頼される専門家であることを目指してきました。

### 社外取締役就任に当たって期待すること

**脇永:** 当社の社外取締役就任に当たり、どのような期待をお持ちでしたか。また、引き受けられた理由についてもお聞かせください。

**正村:** 私は若い頃から当社の測定器を使用しており、非常に親しみを感じていました。当社は創業から125年以上の長きにわたり同じ領域で事業を続け、現在も5Gをはじめ最先端分野において世界で一、二を争っています。老舗企業



でありながら、今後 もさらに新領域への発展の可能性も秘めており、私自身もその発展を体験したいと思い、就任いたしました。

**青柳:** 当社は経営理念に「誠と和と意欲」をもって、「オリジナル&ハイレベル」な商品とサービスを提供することを掲げ、卓越した技術を持ち、常に先端技術の開発に挑戦している意欲的な企業です。この経営理念のもと、当社がグローバルに成長し、多様なステークホルダーの期待に応え続けられる、より良い会社となることに貢献できればという思いからお引き受けしました。

**上田:** 当社が手掛ける事業は、いずれも社会のインフラを支える事業で、社会基盤を支える企業としての存在感をますます高めており、そのような会社に社外取締役として関与できることに非常にやりがいを感じました。また、弁護士業務では、ガバナンス体制に起因すると思われる問題に直面することが少なくなく、企業におけるガバナンス体制構築の重要性を実感しています。こうした経験を、社外取締役としてコーポレートガバナンスの一翼を担うことに活かせればと思います。

### 当社のコーポレートガバナンスと課題について

**脇永:** さまざまなご期待をお寄せいただき、身の引き締まる思いです。当社のコーポレートガバナンスにとって要となるの

は、社外取締役の皆さまの存在だと思っています。当社が、より良いコーポレートガバナンス体制を構築していくために、現在どのような課題があると認識しておられますか。また、その課題に対するご意見もお聞かせください。

**青柳:** ガバナンスが十分に機能していることは企業の持続的な成長の土台であり、ステークホルダーからの信頼を得るために不可欠です。当社は以前からコーポレートガバナンスの構築に力を入れていますが、さらに実効性を高めていくことが必要だと思います。グローバル企業として成長するために、リスクマネジメントを強化するとともに、海外子会社のモニタリングを強化し、グループ一体となってシナジーを発揮できる体制にすることが重要です。

**上田:** 取締役会で十分な議論を行うには、付議される前の段階で、社内の自由闊達で多面的な議論のもと、検討および方針決定が行われていることが重要です。風通しの良い組織にはコンプライアンス上の問題も生じにくいいため、会社が「健康」な状態であるかに常に留意しつつ、取締役会の内外で役割を果たしていきたいと思っています。

**正村:** 当社のような先端技術を扱う企業では、知的財産や技術情報、ノウハウの管理、品質保証などに関する対応は非常に重要です。今後、多様な技術を融合し、異なる業界との連携がさらに進むと、これに対応した新たなガバナンスも必要になります。そうした時に、技術者の視座で意見を述べるのが、技術出身の社外取締役である私の役割の一つだと思っています。

### アンリツのビジョン、戦略について

**脇永:** 当社は新たな経営ビジョンを“「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。”と定めています。皆さまのこれまでのご経歴と照らし合わせて、当社の経営ビジョンや戦略について、どう評価しておられますか。

**正村:** 単なる計測ではない、「はかる」を超えた価値や新領域を開拓するという意味が込められていて、当社が大きく飛躍するという強い意志を共有できる素晴らしい経営ビジ

ョンだと思います。私は、「超える」という言葉に、自らが規格を作り新しい価値を創造することや、環境を「はかる」だけではなく「制御」するという新しい機能を実現するという攻めの姿勢を感じて、ワクワクします。

**上田:** 当社は、お客様の課題を解決するソリューション提供によりビジネス拡大を図っていますが、これは高度化・専門化に対応しつつ、スピーディーな事業展開を目指す顧客ニーズを捉えた、まさに時代に必要とされるサービスだと思います。また、「はかる」技術を通じた安全・安心という価値の必要性や重要性は世界共通であり、一層の技術力向上により、当社が今後も世界で大きな存在感を示し続けることを期待しています。

**青柳:** 新経営ビジョンには、通信計測事業およびPQA事業のコアとなる技術、製品をさらに進化させ、高付加価値ソリューション力を強化するとともに、他社との協業やM&Aにより今までのアンリツを超えていこうとする意思が感じられます。社会や経営環境が急激に変化する中、外部とのつながりを



強めることで、新たな技術や価値、領域を開拓し、常に新しい成長分野を求めて持続的に成長していくために、合理的な戦略だと思います。

## ステークホルダーへのメッセージ

**脇永:** 今皆さまがおっしゃった通り、新経営ビジョンは「FY2030の目指す姿」として、当社グループが2030年に成長・飛躍のステージへ昇るための姿勢を示したものです。事業の発展を通じ、経済的な成長を実現できるよう、我々も力を尽くしていきたいと思っています。最後に、ステークホルダーの皆さまへのメッセージをお願いいたします。

**青柳:** これまでの経験を活かし、コーポレートガバナンスの実効性を向上させ、グローバル企業としての持続的な成長と中長期的な企業価値の向上が実現できるよう、貢献していきたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

**正村:** 現在はステークホルダーが多様化しており、今後はそれぞれの利害関係が対立することも増えると予想されますが、直接のステークホルダーの利害だけを考えるのではなく、さらにその先にいるステークホルダーの存在を想像し、社会全体を意識することが重要です。私はこの意識を持ちつつ、「一貫した決してぶれない姿勢」を保ち、社外取締役の務めを果たしていきたいと思っています。

**上田:** 日々、研鑽を重ね、社外取締役の務めを通じて、当社の確固としたコーポレートガバナンス体制の構築に関わることで、ステークホルダーの皆さまに



貢献していきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

**脇永:** 本日は貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。当社は皆さまのお力もお借りして、今後一層コーポレートガバナンスの実効性向上に努め、グローバルな視点も持ちながら、透明性の高い経営を実現していきたいと思っています。

### 正村 達郎

#### 社外取締役

日本電信電話公社(現日本電信電話株式会社)、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ(現株式会社NTTドコモ)等を経て、日本無線株式会社にて取締役として研究開発本部長、品質保証本部長、研究開発統括等を歴任。2021年より当社社外取締役。情報通信技術に関する専門的かつ幅広い知識のほか、経営者としての豊富な経験を持つ。

### 上田 望美

#### 社外取締役(監査等委員)

1999年弁護士登録、同年東京テームス法律事務所(現紀尾井坂テームス総合法律事務所)入所(現任)。2021年より当社社外取締役。弁護士としてフランチャイズ契約や知的財産関係、金融商品取引関係における訴訟を数多く経験しており、企業法務についても豊富な経験と専門知識を有する。

### 青柳 淳一

#### 社外取締役(監査等委員)

1986年、サンワ・等松青木監査法人(現有限責任監査法人トーマツ)入社、1990年公認会計士登録、2006年パートナーに就任。2020年、青柳淳一公認会計士事務所開設。2021年より当社社外取締役。公認会計士としての財務、会計および内部統制に関する専門的な知識と海外を含め豊富な経験を有する。